

週刊 教育資料

2018年5月7・14日号

No.1476

EDUCATIONAL PUBLIC OPINION

<http://www.kyoiku-shiryō.co.jp>

>>> 好評連載

- 校長講話【身の丈に合った学校づくりを】 岩瀬正司 / (公財)全国修学旅行研究協会理事長
- 教育問題法律相談【「いじめ」の定義について】 澤田稔 / 弁護士
- 特別企画【小学校英語活動で中学以降に役立ったものは?】



▼資料【平成29年度英語教育実施状況調査】

◎文部科学省

▼「マイオビニオン」(教職大学院の量と質—ミドルリーダーを送り出す—)

◎天笠茂 / 千葉大学特任教授

▼危機管理「問題行動を繰り返す高校生の進路変更勸奨の違法性」

◎崎澤秀監 / 東京都立雪谷高校(定時制)主幹教諭

▼潮流「ダンスの「明るさ」「元気」を伝えたい」

◎吉田健一 / 公益社団法人日本ストリートダンススタジオ協会代表理事

吉田健一

よした・けんいち◎北海道出身。関西大学商学部、京都大学公共政策大学院の修了。社長秘書、大手人材派遣会社のグループ会社社長、コンサルティング業務、フィットネスクラブの立ち上げ・運営業務などを経験したのち、ダンスが学校で必修化されることを知り、日本ストリートダンススタジオ協会の設立に関与。2010年より現職。



潮流

潮流◆吉田健一氏

公益社団法人日本ストリートダンススタジオ協会
代表理事

吉田健一氏に聞く①

ダンスの「明るさ」 「元気」を伝えたい

すべての世代にダンスが持つ、
「明るさ」や「元気」を伝えようと
学校のダンス授業の支援も含めて
環境の整備に取り組んできた、という。

ダンスの必修化がきっかけに

——公益社団法人日本ストリートダンス
スタジオ協会(NSSA)の設立の経緯や活
動理念、主な活動について教えてください。

私たちは、平成24(2012)年度から
中学校の保健体育で必修となったダンスの
指導に困っている学校の先生方を支援する
活動や、ダンスを利用した予防医療の取り
組みなど、ダンスを初めて体験される全世
代の方を対象に、ダンスの持つ「明るさ」
や「元気」を提供したいとの思いで、活動
を始めました。ストリートダンスやリズム
ダンスを安全・安心に、青少年から中高年
までの人々が楽しめる芸術・スポーツとし
て発展させ、さらに大きく飛躍させたいと
願っています。

主な活動としては、学校の先生方向けの
ダンス研修会やダンス出張授業、シニア向
けのダンス教室、キッズや親子教室などの
ほか、ダンスコンクルールのサポートなどを
行ってきました。

——「踊育(だんいく)教育プロジェクト」
を進めていると聞きました。「踊育」
とはどのようなコンセプトなのでしょうか。

「踊育(だんいく)」は、①家族とのコミ
ュニケーション②コミュニケーション力の

強化③礼儀教育④自己表現力の向上⑤グロ
ーバルな視点⑥健康な体づくり⑦創造力の
向上⑧生活の楽しみをダンスを通して育
むことを目的とした活動です。リズムに合
わせて楽しく身体を動かすことで、家族間
で会話する機会が生まれたり、幅広い年代
の人々と接することでコミュニケーション
能力が自然と身に付きます。先輩や後輩、先
生・生徒という関係の中で、礼儀やマナーを
身に付けることも大切に行っています。また、
何よりもストリートダンスは自己表現が不
可欠ですから、自分を理解し、それをアウ
トプットして表現していく力が鍛えられま
す。さらに、ダンスは言語を超えてグロー
バルなものですから、世界中に仲間が生ま
れます。体力や筋力、瞬発力などの要素も必
要ですので、健康な体を維持する上でも有
効です。表現を通して創造力が向上しま
すし、発表したり交流したりする機会を通
して生活の楽しみとなり、笑顔が絶えないの
が「踊育(だんいく)」の魅力です。なお、
「踊育」「ダンイク」は当協会の登録商標と
しています。

「明るさ」や「元気」というダンスの
魅力は体育の授業でも大切にしたいですね。
そう思います。以前は、「体育」という
のは子どもたちの好きな教科のトップクラ
スでしたが、最近では体育が苦手という子
どももいます。文部科学省の調査でも、運
動量などでは、近年、中学校の女子の低下
が目立っています。ですから中学校の体育
でダンスが必修となったことをきっかけに、
ダンスを持つ「楽しさ」を全ての中学生に
体験してもらいたいと願っています。もち
ろん授業ですから、いろいろな指導事項も
あるでしょうが、基本的にダンスは「表現」
ですから、自分の気持ちや明るさ、元気さ、
楽しさを、どう表現できるかがポイントだ
と思います。先生方の研修会などでも、振
り付けなどを間違えても気にしないで、と
にかく体を動かして表現することの楽しさ
を味わってもらうことを一番重視している
のです。

学校での「踊育」をサポート

貴協会の「踊育(だんいく)教育プロ
ジェクト」について、内容を教えてください。
私たちは、これまで、教員向け研修会を
全国で390回以上開催し、延べ2万人を
超える先生方に参加していただきました。
ダンスが得意でない先生にとって、ダンス
授業を実施する上で「壁」になるのは、自
分自身があまり上手に踊れないことであ
り、自分で振り付けをゼロから考えなく
てはならないことなどです。ですから、リ
ズムダンス研修会では、授業ですぐに活用
できる振り付けを体験してもらい、子ども
への指導のポイントなどを伝えるようにし
ています。

研修会には、主に保育園・幼稚園や小・中
高校の先生方、学童保育の指導員、大学の
講師や教職課程履修中の学生などが参加し
ており、リズムの取り方やカウントの教え
方、基本的な動き(サイドステップなど)
で構成した振り付けなどのほか、簡単なキ
ューイング(声かけ)や、ミラー指導のポ
イントなども学びます。詳しい内容は、当
協会のホームページでも公開していますの
で、ご覧いただければと思います。

参加された先生からどのような反応
がありましたか。
「動き重視、出来重視ではなく、先生と
園児と一緒に楽しめるものとして、幼稚園
で実践したいと思えます」「自分が良い手
本になれない、生徒に見本が見せられない
と不安だったが、声のかけ方、とにかく楽
しく取り組む、段階を追って教えていく進
め方で、授業もスタートできそうです」
「笑顔、ほめること、声だし、ハイタッチで
のコミュニケーションなど、授業でも活か
せるノウハウを楽しく伝授いただきました」

「下手でも体を動かすことに、とても楽しさを感じました。この感覚を生徒たちにも体験させたいと思います」などの感想が寄せられています。

——ダンスの授業の指導に役立つ映像教材なども提供されています。

当協会のホームページで、年代別のリズムダンスの模範映像を公開しています。これは、教育現場でダンスの指導をされている先生方向けに作成したものです。また、学習用音源教材「踊育CD」として、当協会とユニバーサルミュージックのコラボレーションによるダンス学習用の音源CDを作成しました。子どもたちに耳馴染みの良い曲として、クラシック音源をダンス用にアレンジした楽曲などを収録しました。教員向けのリズムダンス研修会に参加していただく、この「踊育CD」と「NSSA学校ダンスC級指導員認定証」がもらえます。

——「東北ダンスプロジェクト」はどういう活動ですか。

これは、ダイドードリンコ(株)の支援を得て、2012年から実施しているもので、昨年度は岩手県、宮城県、福島県の3県において約100校の小学校や幼稚園などでダンス授業や先生向けのダンス研修会を開きました。被災地の子どもたちが体を動かす場が少ないという現状を踏まえて、

「ダンスを通して明るく元気になってほしい」という願いから生まれたプロジェクトです。こうした活動を通して、子どもたちの「ロコモティブ・シンドローム(運動器症候群)」の予防に役立てたいと思っています。

□ロコモ・メタボ予防に効果も

——今、被災地の子どもの運動器症候群の話がでしたが、「メタボ」や「ロコモ」予防は国民的な問題にもなっています。

体力低下の問題だけでなく、運動不足やストレス解消などを目的として親子でリズムカルなヒップホップダンスをすることで、運動することの楽しさを体験してほしいと願っています。福島県では2013年度から親子ヒップホップ教室を実施しており、現在までに延べ4万人以上の親子に参加していただきました。

特に、2016年度から学校の健康診断で運動器のチェック(ロコモ・チェック)が必須になっていきます。高齢者だけでなく若年世代にもロコモティブ・シンドローム(運動器症候群)の予備軍が増えているという調査結果もあるため、当協会でもロコモ予防に効果が見込めるダンスなどを加えるようにしています。特に、体の「固さ」が問題になっていますので、柔軟性を養う

ダンスはロコモ予防には効果的ですし、将来のメタボ予防の観点からも、楽しく運動を継続できるダンスは効果が大きい、と期待されています。

——幼児から高齢者まで、ダンスを通して健康を維持することは、医療費の抑制にもつながりますね。

福島県で実施している親子ヒップホップ教室には2歳くらいの幼児も参加していますし、自治体や企業などと連携して実施している「はじめての健康ダンス教室」には90歳以上の高齢者も参加しています。こうしたダンス教室は、普段はフィットネスクラブなどに通う機会のない、運動が得意ではない人に、手軽に楽しく運動習慣を身に付けてもらう取り組みで、厚生労働省やスポーツ庁などの後援を受けています。なお、「はじめての健康ダンス教室」は、奈良県立医科大学や名古屋学院大学との共同研究で開発された当協会オリジナルのダンスプログラムをベースにした振り付けで実施しています。これは、介護状態にある方のリハビリを目的としたものではなく、元気なシニアの皆さんに運動を始める「きっかけ」を提供し、健康なシニアの身体の機能維持や体力の向上を目指すものです。

公益社団法人日本ストリートダンススタジオ協会＝<http://nssa.or.jp/>